

2018 年度定演期 MS 選曲委員会 意見シート

文責：長森咲都

基本的に技術的な面はソプラノ視点で考えています。他パートのこと書きたいときはその旨書きます。

1. 銀河鉄道の夜

- ・好き。推したい。銀河鉄道の夜とりあえず読んだが、ますますモチベーションが上がった。初め楽譜見た時これは…と思ったが、第一印象よりは実はシンプルなところが多いのかという気持ち。「音画」という言葉も適していると思う。
- ・「愛の天文学」とタイトルの感じの被りが気になるという意見が出そう。話題性どうかは知らないが、チラシにこのタイトルがあったら私は来たくなる。あとこのコンビ飽きたとかいう意見も出そう。コンビ(?)に関して私は全然違うと思うし何も気にならない。飽きてもないし。
- ・繰り返しも多いし 4div.までなところがあるからパート分けが大変そう。声量声質がある程度よりそって初めてこの構造の意味があると思う。
- ・エコーというよりかはいっぱい散らばっているのが通り過ぎていく感じ(三角標とか)? だんだん大きくなっていくところとかはそうだと。細かい強弱で距離感をうまく具合に。もちろんエコーもあると思うけど。分かれているところはパート内または他の一部パート音が一緒なところが多く、受け継ぎみたい

なのも多い。からわかって慣れるまでに時間はかかりそうだがそこからは行けそうな気がしなくもない。

- ・男女で分かれるところが非常に多いためアルトとの連携が大事になりそう。
- ・意味内容の解釈は置いておいても日本語が楽しい。歌い分けは積極的に考えたい。
- ・銀河鉄道の夜読み、本の注釈でも関連する内容を色々知ったので「これかー」っていうのはちょっとわかったが、曲の構成としてわからないところがいっぱいある。『ゴーゴー』のところとか『ようくるみの木…』のところとか(これは岩手軽便鉄道?)とその後(Qの前まで)とか。銀河鉄道の夜本文だけが主でなく関連する詩がまとまって入っているのはわかるが、全然読み込めてはないのでたくさん考えていきたい。全体としてメリハリがあって良い。ただ、この物語を知ってこういうことを書いている(想像以上に深かった)ので、物語を知らない or 忘れたお客さんにはどう聞こえるのかわからない。世界観は伝わらと思うが…。詩と曲と関連については、『百べん灼いてもかまわない』のところがちよっとしっくりこない気がする。
- ・練習の見通しなんてわからないが、比較的立ちやすいかなと。見た目より簡単そうとか言ったけれど 3/4div.を把握できるか不安。わからない。

2. 《祈る》—長田弘の詩とヴォカリーズによる—

- ・新しい感じがすごくする。全体として、考察するところがたくさんありそう。楽譜の最後にあるコメントみたいなところ(皆様に読んでほしい)にあるように、歌詞のある部分は詩に寄り添っているように感じた。ザワザワした世

界からは切り離された（というと表現が悪いかもしれないが）、静かで芯のある新しい空間時間を作りたい。

- ・今のところ練習の見通しはあんまり立たないかもしれない。中盤後半は、形にすることそんなに難しくないと思うのでそこからどう指導していくか。

- ・各パート、2パートずつとかで違う動きをする部分、全パートで揃う部分が割とはっきりしているので、区別と揃える練習を丁寧にやりたい。

- ・曲の大きな流れとしては前向きな方向に進んでいると今は感じている。詩自体は震災前のものであるらしいが、震災に関係していて、重い気もする。決まれば1ステになるようだが、他のステージとのバランスも考えたい。1ステでやること自体は賛成。

- ・「ヴォカリーズによる」とサブタイトル(?)にもあるように、ヴォカリーズがキーになると思う。前半の指導に不安が大きい。**AB**にかけての雰囲気は好き。**C**は3パートに分かれている(3つのカタマリにできる)が、音の高さがパート間であまり変わらないこともありどこ行っているかわかりにくい。ヴォカリーズ部分全体を通して、構造を把握するのはもちろんだが、よくわからない感じ、ウニョウニョ感(語彙が)を出したい。良さげなる和音がたくさんあるので耳を使う。ヴォカリーズの意味についても深く考えていきたい。詩が入ってきた中盤、後半のヴォカリーズは好き。

- ・ソプラノだけで(時々ピアノと一緒に)伸ばすところが複数ある。印象に残るし曲の雰囲気に作るので、どう歌おうか。クリアで清潔感のある感じが今はいい。

- ・語りとラスト(エンディング)が未だにじっくりこないのを話を聞きたい。

よくわからないラスト。ラストが自分の中でじっくりこないと推せない。

3. フィリピン音楽の窓

〈全体〉

- ・フィリピンはよく知らないけれど面白いと思う。動画で座りながら高音出していて強いと思った。どこか聴きなれていない音楽って感じがして楽しい。

- ・他ステとのバランスも悪くないと思う。テーマとしても目を引くかなと。オムニバスも、感じの違う2曲だからいい感じでは。

- ・練習の見通しもまあまあ立つ。難しいのもあるかもしれないが。

〈Doxologia〉

- ・“*Salus*”の通り本当に聞いていたら救われそうな曲。良い。音が綺麗。難しいリズムではない、動きの一体感もあるので耳使いつつ把握しながら丁寧にやりたい。

- ・初めと中盤の太線のところ何言っているかわからない(指示の意味がわからない)。後半、クレッシェンドの他に強弱指示が少ないのでちょっとよくわからない。

- ・基礎力がものを言いそう。長い音符が多く休みもあまりないため持続力・推進力かなりいると思う。しかも最後に高いの来るし。高音は抜きたい(語彙力)。細かい下降/上昇音型も多い。あとフレージング。音に振り回されたくない。難しくなさそうで実はきつみみたいなの？

〈Gloria Patri〉

- ・かっこいいし楽しそうではある。フィリピン感ある(?)なんかやばい曲だ

なという第一印象。形になるまでかなりかかりそう。だからと言って指導できないわけでもなさそう。ノリは欲しいが、雑にならないようにはしたい。

- ・初めからソプラノ頑張らなきゃ行けない。この高さでこの音価で鳴らすのは難しい。(ですよね?) ほとんどずっと分かれているのも不安(六連期見る感じなのであてにはならないかもだが)。男声も頑張ってくださいという感じ。

- ・全体的に音も難しい。最初と最後は動きも速いし細かいし(上は)高いし…丁寧にやるにしても大丈夫かなあという感じ。26~とかやばい。発語も難しそう。発語あつての曲の面白さでもあると思う。くっきりした演奏にしたい。パートごとで違う動きするところとか特に混乱しそう。できたらすぐくっついけど。

4. 光と闇

〈全体〉

- ・他ステとのバランスがなんか良さそう(感覚)。テーマとしても面白いと思う。
- ・まあまあ好き。音源とても綺麗だが柏葉でやるとどうなるかわからない。練習の見通しも比較的立つかと。
- ・2曲、始まり方から全然違って面白い。
- ・他の曲とは違った意味での持続力がいいそう。

〈Lux aurumque〉

- ・音難しそう。音程感覚が要りそう。はまると耳が幸せ。パートバランスも大事かと。なんにせよめっちゃ耳を使いそう。

- ・ソプラノとしては声質の問題が。今の幅の広い声だとうまくはまらないかなと。上澄みのような感じ。<>でも厚みは欲しいが太く落とした声にはなりたくない感じ。圧倒的レガート。

- ・弱音がキーになると思う。無、というか暗闇からから生まれる感じ(これはNoxも共通か)。カスカスじゃなくて、細い、それこそ「光った」声。緊張感と持続力、集中力ですかね。

〈Nox aurumque〉

- ・入りから闇感ある。かなりぶつかりばかりだが、時々よくわからない音の重なり方をする(ただのぶつかりでなく?) Luxよりさらに音難しそう。

- ・中盤テナー高い。終盤ソプラノ高い(楽譜ないため詳しくはわからないが)。何か悲痛なものが伝わって来る気もする。ある意味メリハリを出せたらと思う。

5. 森の憧憬

〈全体〉

- ・バランスは、宇宙(?)・森・海でなんかいい感じ。このような形式の演奏をあまり聞いたことがないのでなんとも言えないが、面白いステージ・空間になることは間違い無いだろう。

- ・推したくない選曲案。私の中で kondalilla が問題であって little tree はとてもいいと思っているのでなんだか申し訳ない。

〈kondalilla〉

- ・“kondalilla”って何かわからなくても普通に想像できるくらいに体感的な曲。

とても綺麗で面白い。柏葉でできたとしたら大きな可能性を感じる。とんでもない曲だと思う。

・色々動画を調べてみても少人数ばかりだが、柏葉のような人数だとどうなのか（MSだと考慮しても）。うまくいかない気がする。ということで上2パートを7人前後の soli.的扱いにするかもしれないということだが、少人数で、一人でもできる人を選ぶならできるかもしれない（かもしれない）。後そうすると他の大人数は全て下ということだろうか？どこにも所属しないのだろうか？そうなると指導はどうすればいいのだろうか？（何せ女声は1段目のような部分が大半だから）アンサンブルが多くなるのか？

・“ad lib.”がほとんどだが（特に女声）、一人一人大ホールでアドリブで声出せるかと言われたら、現実的に考えて厳しいのでは？しかも客席に散らばるといことで、お客さんが入った状態での練習はできないわけだからとても怖い。指導の自信は全くない。

〈little tree〉

・とても綺麗で良い。少しポップな感じもする。体感的であるし、誰でも親しみやすいのでは。

・簡単な英語なので是非歌詞も聞かせたい（英語の発音には自信がない）。いい歌詞ですね。

・音が取りにくいことはそんなにないかなという感じ。ソプラノは跳躍（しかも高い）が多いので不安。交聲詩海とかとは全く違う声出せたらいいなと。練習の見通しは…あんまりイメージがつかない。考えるべきはいっぱいあると思うので、これから考えていければ。

6. drei gesänge

・ドイツ語（？）古典派ということで、音も好きだしこういうのは嫌いでないが、積極的には推したいとは思わない。音源のせいかもしれないが、MM みたいに感じた。大人数の柏葉でやれば壮大で迫力もあるのでいいのではと思う。

バランスとしては、MM、SM でこれだと重い気がする。

・ドイツ語は本当にわからない（くちびるに歌を歌ったことあるくらい）。練習の見通しは、よくわからないというか自信がない。

・決まればすごくかっこいいが、やるとしたらかなり、だいぶしんどそう。休みどころがなさそうだし、強弱の要求も高いように感じる（特に＜＞）。MS コマ数で仕上がるのか不安。ソプラノはリズムとか音とかで苦労するというよりは体力（持久力）やフレージング、持っていく方の方で苦労しそう。すごく高い音が出て来るわけではないが、中高音でじわじわきそう。強いところも多いし。あと暗譜辛そう。

・初めの2群っぽい楽譜の書き方が気になる。動きはそんなに変わらないのか。